

図書館だより

No. 4
2018年
7月12日発行

尼崎双星高等学校図書館

I. 夏の特別貸出!

最大で54日間も 借りられますよ!!

貸出開始: 7月12日(木)より貸出します

貸出冊数: 上限10冊まで(開館日には、途中返却・貸出可能)

返却日: 2学期の始業式【9月3日(月)返却厳守】



★図書館は本の森!

II. 夏休み中の図書館開館日

自習室としても利用できます。

開館時間: 9:00~17:00

開館日: 7月23日(月)・24日(火)・25日(水)

26日(木)・27日(金)・30日(月)

31日(火) 前半7日間

8月20日(月)・21日(火)・22日(水)

23日(木)・24日(金)・27日(月)

28日(火)・29日(水)・30日(木)

後半9日間



ナツドクのおすすめ

この夏、思いっきり、読書しよう!

本と出会い、一歩踏み出す!世界を広げる!

読書は冒険!知る!発見する!自分が変わる!

一冊一冊 未来にススメ!

これまで、あまり読書していない君も、

思い切って、本の世界に飛び込もう!

本を読みたいけど、どの本を読んだら

いいのか、わからない人も、

図書館に来れば見つかります。

おすすめ本を紹介しますよ。



おすすめ本の紹介「読書の木」を育てています。

読みたい本を見つけよう。

6月の図書館の利用状況

期末考査前1週間の放課後は、各自利用が盛況でした。

勉強に集中したり、グループで教えあったりしている姿がありました。

報告

月	開館 日数	利用者総数		貸出者 総数	貸出総冊数		リクエスト数	パソコン 利用
		人数	冊数		203冊	冊数		
6月	18日	366人		128人	1年	88冊	7件	4件
		昼休み	154		2年	69冊		
		放課後	190		3年	35冊		
		その他	22		職員	11冊		

☆6月5・6日は文化祭のため、閉館しました。

☆第1回学校説明会(6月16日)では、182名の見学・利用がありました。

☆6月18日(月)は地震発生のため、臨時休校でした。



『星に願いを、そして手を』 集英社

青羽 悠 // 著

4人の少年たちの「宇宙」への好奇心。大人になり、大切な人の死をきっかけに再会するがー。小説すばる新人賞 史上最年少受賞作

『マルカン大食堂の奇跡』 双葉社

北山公路 // 著

老朽化した大食堂を復活させたのは、人気メニュー「25cmソフトクリーム」をこよなく愛する地元高校生たちだった。若者たちの夢の根運動ノノイックョ

『未来』 湊かなえ // 著 双葉社

「こんにちは、章子。私は20年後のあなたです。」ある日、突然届いた一通の手紙。送り主は未来の自分だという。待望の長編ミステリー

『ののとはな通信』 KADOKAWA

三浦しをん // 著

ののとはな。2人の女子高生。性格が正反対の親友同士。運命の恋を経て、少女たちは大人になる。女子大河小説の最高峰

『疾風の女子マネ！』 小学館

まはら三桃 // 著

高校陸上部で選手と共に戦う女子マネ物語。男子4x100mリレーが熱い！爽快！感動！陸上部青春物語。

『虹色のコーラス』 西村書店

リュイス・ブラツ // 著

子どもたちの歌声が世界的ピアニストを動かした。音楽への愛に一生を捧げた女性教師の心温まる物語

『モリー先生との火曜日』 NHK出版

ミッチ・アルバム // 著

青年ミッチが16年ぶりに再会した恩師モリーは、難病に侵され死の床にあった。その日から始まった二人だけの毎週火曜日の授業。テーマは「人生の意味」世界で読み継がれた不朽の名著

『ヒーロー 家族の肖像』 西村書店

ロート・レープ // 著

父ヒーローが癌を宣告されたことで、ばらばらな家族たちがはじめて歩み寄る。死ぬこと、生きること、愛すること、人生で大切なことすべてがここに。

『長い眠り』 西村書店

ステイブン・P・キールナン // 著

北極海の氷山の奥深くから発見された氷漬けの男。時を超え、氷から甦った男を待ち受けるものとは？科学の倫理性、人生を問うサスペンス・ロマンの傑作！

『ファンゲ一家の奇想天外な謎めいた生活』 ケヴィン・ウイルソン // 著 西村書店

いちばん身近で厄介な他人、それが家族！全米ベストセラーのコメディ小説

『金魚姫』 荻原 浩 // 著 KADOKAWA

笑って泣ける人間賛歌。突然僕の前に現われたのは、金魚の化身のワケアリ美女！

『夏の祈りは』 須賀しのぶ // 著 新潮社

全力の汗も悔し涙も、すべて栄光につながっていく。高校野球小説の傑作！

『10年後、君に仕事はあるのか？』 藤原 和博 // 著

未来を生きるためにどんな力を身につければいいのか？高校生への人生の教科書 ダイヤモンド社

『ラヴレター』 岩井俊二 // 著 角川書店

雪山で死んだ彼の三回忌に、彼の住所に手紙を出すすと返事がきてしまう。奇妙な文通がはじまる。

『あのひとは蜘蛛を潰せない』 彩瀬 まろ // 著 新潮社

『最後の医者は雨上がりの空に君を願う』 二宮敦人 // 著 TOブックス

『自閉症の僕が跳びはねる理由』 東田 直樹 // 著 KADOKAWA

人との会話が困難で、気持ちを伝えることができない自閉症者の心の声を、著者が13歳の時に記した本書。世界的ベストセラーのエッセイ・話題作。

『大人のための社会科』 井手英策 // 著

気鋭の社会科学者が日本社会を解きほぐす。社会をよくしたいすべての人のための教科書 有斐閣

『まねる力 模倣こそが創造である』 齋藤 孝 // 著 朝日新聞

『苦しんで覚えるC言語』 MMG a m e s // 著 秀和システム

『白いネコは何をくれた？ネコが人生を変える』 佐藤義典 // 著 フォレスト

『成功する人は偶然を味方にする』 ロバート・フランク // 著 日本経済

『だけでも書ける最高の読書感想文』 齋藤 孝 // 著 KADOKAWA

読んで世界を広げる、書いて世界をつくる 読書感想文募集

図書館に提出された感想文の中から優秀作品を選んで、青少年読書感想文全国コンクール・阪神高校支部に応募します。優秀な作品を期待しています。

※1・2年生は宿題です！

提出期限や提出先、原稿用紙については、各「学年通信」などで確認してください。

※3年生は自由提出です。市販の原稿用紙で構いませんが、指定の原稿用紙が欲しい人は、図書館まで来てください。チャレンジしてください。

阪神高校支部の応募要項

- 1 対象図書 自由図書（教科書、副読本、雑誌、パンフレット類、日本語以外の図書は対象外）
課題図書（下記のコンクール課題図書）
- 2 字数 2000字（題名・氏名は字数に入れない）
- 3 応募締切り 9月3日（月）始業式

第64回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書〈高等学校の部〉

	書名	著者名	出版社	価格税込
1	わたしがいどんだ戦い1939年	キンバリー・ブルベイク・ブラッドリー	評論社	1728円
2	車いす犬ラッキー：捨てられた命と生きる	小林照幸	毎日新聞	1620円
3	いのちは贈りもの：ホココストを生きのびて	フランシーヌ・クリストフ	岩崎書店	1728円



『わたしがいどんだ戦い1939年』
キンバリー・ブルベイク・ブラッドリー・作
大作道子・訳
足が悪くて母親からの虐待を受けて育ったエイダ。第二次世界大戦が始まり、弟のジェイミーが学童疎開することになるが、自分も付いて行く決心をする。母親から逃れるのだ。

疎開先で二人を引き取ったスーザンは、困惑しつつも心が傷ついた二人を受け入れる。地域の人びとも支えられ、エイダもジェイミーも少しずつ変化し、やがて3人には強い絆が生まれる。戦時下の英国を舞台に家族とは何かを描く。
(評論社 本体価格1,600円)
ISBN978-4-566-02454-0

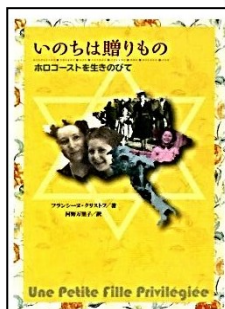


★図書館に
あります。



『車いす犬ラッキー：捨てられた命と生きる』
小林照幸・著
ラッキーは拾われてきた子犬だった。飼い主の須尚が、保健所から殺処分寸前に引き取ってきて飼っていた犬、寅とも仲が良かった。そのラッキーが事故に遭い脊椎損傷の大怪我をする。獣医は安楽死の道も示したが、須尚は飼い続けるこ

とを決める。
亜熱帯の島、徳之島で生まれ、電器店を営んでいた須尚の生い立ちや、結（ゆい）の精神が生きる島の人々の暮らしを、車いす生活になったラッキーの姿と共に描くルポルタージュ。
(毎日新聞出版 本体価格1,500円)
ISBN978-4-620-32445-6



『いのちは贈りもの：ホココストを生きのびて』
フランシーヌ・クリストフ・著 河野万里子・訳
戦争が始まった。フランシーヌの父はフランス北部で戦っていたが、ドイツ軍に敗れて捕虜となった。
町はユダヤ人迫害の嵐が吹き荒れ、フランシーヌも公園や地下鉄で差別を受けるようになった。そして9歳になる直前、

母とともにドイツ兵につかまり、ユダヤ人強制収容所に送られた。
空腹と寒さ、病気など想像を絶する過酷な状況の中でも希望を失わず、互いに支えあって奇跡的に生きのびた著者による手記。
(岩崎書店 本体価格1,600円)
ISBN978-4-265-86018-0



全国学校図書館協議会
選定図書
第51回
夏休みの本
緑陰図書
〈高等学校の部〉

あなた 彼方の友へ



伊吹有喜・著
実業の日本社
本体価格1,700円
ISBN978-4-408-53716-0

佐倉ハツ、自称佐倉波津子。90歳になる彼女は高齢者施設で静かに暮らす。しかし彼女こそ「大和之興業社」で戦前、戦中、戦後と人気雑誌を支えてきた敏腕編集者だった。彼女の生きてきた道のりはそのまま日本の近代出版史と重なる。戦前の古き良き時代、戦中の出版統制・言論統制の時代、戦後の民主主義の到来。波乱の人生を生きてきたハツに見る日本近代史。戦争は、魅力的で個性豊かな市井に生きる人々の人生を、狂わせる。


星ちりばめたる旗



小手鞠るい・著
ポプラ社
本体価格1,700円
ISBN978-4-591-15574-5

日系アメリカ人3世代の物語。故郷に錦を飾ろうと、差別に抗いながら功を収めることに腐心した祖父である一世。アメリカ人になりきろうとして、日本的なものを敢えて避けてきた二世である母。母の考えに反抗し、自らのルーツである日本や日本人を意識し続ける三世のジュンコ。日米関係の歴史に翻弄されつつ、懸命にそれぞれの時代を生きてきた三世代の生き方を縦糸に、家族や親子の思いを横糸に織りなす人間ドラマ。


チェンジ：私のウガンダ2000日



山田優花・著
海竜社
本体価格1,300円
ISBN978-4-7593-1521-9

筆者は10歳のときに父をガンで失った。厳しい経済状態の中で「あしなが育英会」の奨学金を受けて大学に進学し、サマーキャンプや海外研修の経験を通して「ウガンダとアフリカの声なき人の声になりたい」という志を持つようになる。ウガンダとの出会いにより人生が大きく変えられた著者は、大学卒業後アフリカの人々の自立を助けるためのプロジェクトを立ち上げ、東奔西走の日々を送る。

ティンパニストかく語りき：“叩き上げ”オーケストラ人生



近藤高顕・著
学研プラス
本体価格1,500円
ISBN978-4-05-800818-8


現役のベテランティンパニ奏者による音楽エッセイ。一般人にとって見たこと聞いたことはあるが、あまりよくは知らないティンパニについて知ることができる。著者の音楽家として生きてきた道のりや、ティンパニという楽器を通して見た、多くの演奏家やさまざまなオーケストラ、マイスターと呼ばれる名指揮者たちの個性や魅力、オーケストラと指揮者の関係など、音楽に関する興味深い話題が続く。



★この中で紹介している図書は、すべて図書館にあります。早めに借りました。

1年生・2年生全員に配布される、このパンフレットの中で紹介されている50冊は、図書館に揃えています。ぜひ、読んでいきましょ。ぜひ、読んでいきましょ。ぜひ、読んでいきましょ。ぜひ、読んでいきましょ。

ガラスの封筒と海と



アレックス・シアラー・著
金原瑞人、西本かおる・訳
求龍堂
本体価格1,600円
ISBN978-4-7630-1705-5

小さな海辺の町に暮らすトムは、ラジオから流れてきた歌に触発され、ガラス瓶に手紙を入れて海へ流すようになる。それは海で亡くなった父の面影を求めてのことだった。住所もあて名も書いていない「ガラスの封筒」は、だれのもとにたどり着くのか。海の怖さを知りつつ海に憧れるトムが、不思議な体験を経て一歩大人に近づく物語。少年の行動を周囲からそっと見守る海の男たちの目線も温かく、愛にあふれている。

蝉の交響詩



アンドレアス・セシエ・著
酒寄進一・訳
西村書店
本体価格1,500円
ISBN978-4-89013-784-8

寄せては返さざ波にもまれて、何かが浜辺に打ち寄せられた。それは流木などではなかった。一方、砂漠に広がる地平線の向こうから、ひとりの男がマスクランの村にたどり着いた。鉄板のように熱い砂の中を歩いてきた男は、この村の老人イブラヒムに助けられ、長い長い話を語り出す。ヴァイオリン弾きと、ヴァイオリンの数奇な運命を50余の楽章からなる楽譜仕立てでつづったドイツの小説。

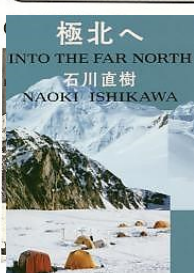
スイカのタネはなぜ散らばっているのか：タネたちのすごい戦略



稲垣栄洋・著
西本眞理子・絵
草思社
本体価格1,300円
ISBN978-4-7942-2298-5

自力で移動することのできない植物が、その分布を広げる手段が2つある。「花粉」と「種子」である。本書は、風に乗って旅する種子、動物によって運ばれる種子など、より遠くへ移動するための植物の知恵と工夫を紹介している。種子にまつわる童謡、ことわざ、古典文学から迷信、俗言のたぐいまでを幅広く取り上げていて話題に尽きない。細密な植物画が理解の助けになる。

極北へ



石川直樹・著
毎日新聞出版
本体価格1,800円
ISBN978-4-620-32428-9

20歳のときに北米最高峰・デナリに登頂したことが写真家・石川直樹としての活動の原点になったという。その後も20年に渡りカナダ、グリーンランド、ノルウェー、スヴァールバル諸島など極寒の諸地域を訪れ、人々の暮らしや自然を撮り続けている。地球温暖化による海面上昇で陸地が縮小したり、観光地として消費され伝統がむしばまれていく現状を報告する一方で、極寒の地に生きる人々への畏敬が瑞々しく綴られている。